

令和 7 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

「心豊かに道を究む」の校訓のもと、「英知を養い、進取の気象をはぐくむ」「友情を重んじ、豊かな感性を養う」「体力を培い、節度ある態度を育てる」を教育目標として、調和のとれた豊かな人間性を有し、力強く道を切り開く社会に有為な人物を育成する。

2 学校の特徴

本校は、普通科 6 学級の中に 1 学級の音楽コースを有する普通科単独校である。音楽コースは、県内唯一の芸術コースとして多くの音楽家を輩出してきた。校舎内には絶えず音楽の調べが流れ、文化の薫り高い学びの場となっており、広い敷地と余裕のある校舎配置による恵まれた環境のもと、芸術を通して豊かな情操を養うとともに伸び伸びとした創造的な生徒の気質が育成されている。また、多くの生徒が 4 年制国公立大学進学を希望し、その実現に向けて学習等に励んでいる。

3 学校の現状と課題

本校は創立以来、本校の「教育目標」「教育方針」および「学校経営計画」に基づいた特色ある教育を実践し、それによって社会に有為な人材を輩出する学校として地域にも認められてきた。

しかし、創立から 40 年余りを経て、学校も成熟期に入り、生徒については概して真面目で素直であると好感を持って評される一方、草創期における何事にも全力で取り組んでいた生徒の旺盛な進取の気象については、現状としてはやや弱い傾向を呈している。国内外の社会情勢が変化し教育に寄せる期待が高まるなか、本校においては、個々の生徒の特性に適切に対応し、生徒が主体的に学び、他者と協働しながら心身ともに健やかに成長することができるよう適切な教育や指導を実践し、教育目標を実現していかなければならない。

当面の目標として以下の 5 点を重点事項とし、その達成をめざして実践していくこととする。

- ① 生徒の主体的学びによる基礎学力の一層の充実と深い学びを引き出すための授業改善。
- ② 他者と協働し、健全な社会人として生きるための態度・能力の育成。
- ③ 自らの適性の発見・伸長、高い志に根ざした主体的進路選択を可能にするキャリア教育の推進。
- ④ 良好な人間関係の構築、豊かな心と知性・感性・探究心を育む特別活動の推進。
- ⑤ 心身ともに健やかな成長に資する多様な支援の充実と生徒・保護者・教職員の連携。

以上の 5 点に重点的に取り組み、建学以来育んできた芸術・文化の薫り高い創造性、生き生きとした進取の気象を大切にしながら、一人一人の生徒が全力で成長しようとする活気あふれる学校づくりに取り組むことによって、一層多くの有為な人物を輩出していきたい。

学校教育計画（令和7年度）

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
(1)	学 習 活 動	目 標	・本校の教育目標・教育方針に沿って、教科学習と特別活動との調和を図り、豊かな人間性、社会性および自ら学び自ら考える力を育成し、調和のとれた人間形成を目指す。 ・生徒の能力、適性、進路の実態に応じた適切な指導を行い、基礎学力を充実させるとともに、自主的・自立的学習態度と学習習慣の育成を図る。深い教養を身に付けた人間形成をめざし、主体的に学習に取り組もうとする生徒を育てる。
	重点1① 重点1②③	計 画	・個人面談や学習実態調査を通じて生徒の実態把握に努め、<u>家庭学習の充実を促す</u>など、個性に応じた適切な指導を行う。 ・<u>互見授業を実施し、「主体的・対話的で深い学び」につながるICT機器の活用方法を検討する</u>。基礎学力の定着を図りながら発展的な思考を引き出し、個性・能力の開発・伸長を図るための授業方法を工夫する。 ・生徒の実態にあわせて適切な課題を与え、学力の向上を図る。 ・音楽コースでは、授業だけでなく、個人レッスンや部活動、学校行事などを通して多くの音楽活動に接する機会を設け、能力の向上を図る。
(2)	学 校 生 活	目 標	・心の触れ合いを基盤にして、人間としての望ましい在り方・生き方を目指し努力する態度、自ら考え正しく判断し主体的に行動できる能力、および互いの人格を尊重し励まし合いながら共に向上する意欲を育てる。
	・重点2① ・重点2②	計 画	・生徒の意識・生活環境などの実態を多面的に把握するよう努め、生徒が<u>基本的な生活習慣を確立</u>し、健全な社会人として自立できるよう支援する。 ・全職員の協力のもと統一性・一貫性のある指導を行い、社会生活を送る上で必要な<u>規範意識の向上</u>を図る。 ・街頭指導や広報活動などを通して交通安全意識の高揚を図る。 ・生徒指導に関してできるだけ多く意見交換の機会を持ち、職員間の共通理解を図る。
(3)	進 路 支 援	目 標	・生徒自らの能力の開発と適性の発見に努め、将来の生き方や人生観の育成のため、主体的に進路を選択し、学習することができるよう指導、援助する。
	・重点3①	計 画	・第1学年では、本校生としての学習への円滑な移行を図り、基本的な学習習慣を確立させる。第2学年では、学力の伸長と進路研究に努めさせ、早期の進路目標の設定を促す。第3学年では、実力の養成と適切な進路選択を支援する。以上3年間を通し一貫した進路指導の下に、志望の実現を目指す。 ・将来の進路を考えるための講演・講義等や「総合的な探究の時間」での職業・進路研究や主体的な探究活動、進路ガイダンス、オープンキャンパスへの参加や面接等を通して、進路意識の高揚を図る。 ・面接指導に重点を置いて生徒との信頼関係を築き、進路目標設定の支援と意識の向上に努める。 ・入試問題や入試動向を研究・分析し、生徒の進路実現を支援する。 ・保護者会やPTA進路講演会などにより、保護者に対して進路に関する情報を提供し、家庭との連携の一助とする。

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
(4)	特 別 活 動	目 標	・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・部活動を通して、自ら考え、協力して実践する力を高めるとともに、豊かな人間関係を築く力を育てる。 ・生徒の読書活動を支援し、豊かな知性と感性を育む。 ・「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての図書館機能の充実を図り、生徒と教職員の利用を促す。
	・重点4① ・重点4②	計 画	・学校行事の企画・運営に積極的に関わらせ、計画的に取り組ませることによって、<u>リーダーとしての自覚や生徒一人ひとりの自主性や責任感を育み、生徒会全体の活性化を図る。</u> ・生徒の学校行事やHRに対する充実感を高めるため、<u>各種委員会活動の内容を検討し、積極的に取り組ませる。</u> ・ホームルーム活動を通して、豊かな人間関係を築く力を培う。そのために、討論の力を高める活動に重点を置く。 ・部活動を通して、個性の伸長だけではなく、集団生活における自主性や協調性を養う。 ・ボランティア活動の推進に努める。 ・図書館だよりの発行、「読書の時間」や「ホームルーム読書会」、「図書館フェア」などの機会を活用して、<u>生徒の自主的な読書活動を促す。</u> ・進路関係の図書資料の整備・充実に努め、進路支援をする。 ・教科、学年、分掌、部活動などさまざまな場面での学習活動の利便性を高める。
(5)	・重点5①		
(6)	学 校 生 活 そ の 他	目 標	・本校教育活動、PTA活動のさまざまな機会を利用して、開かれた学校づくりに努める。 ・<u>魅力ある本校の教育活動を、様々な方にアピールできるよう広報活動の工夫を行う。</u> ・校内美化により学習環境を快適に保つ。 ・多面的な生徒支援。
	・重点6① ・重点6② ・重点6③	計 画	・PTA総会、役員会、SPTA懇談会等への満足度を高め、<u>学校行事開催時に保護者や地域の方が来校できるよう努めること</u>によって、保護者や卒業生、地域住民との連携を深める。 ・<u>ホームページを充実させ、広報活動を強化する。</u> ・校舎内外の環境美化について個々の生徒が意識を高め、主体的に行動できるよう、美化委員が中心となり啓発活動を行う。 ・日常的な美化活動に加え、大掃除時には重点項目に従って生徒全員で環境美化に取り組み、生徒自身で評価し、快適な学習環境を保つ。 ・悩みを抱える生徒に対し、多面的に支援する。

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動（学習指導の充実）	
重点課題	家庭学習の充実と教科指導の充実	
現 状	①本校生徒の進路目標達成のためには、日々の授業を大切に、生徒が計画性をもって生活時間を調整しながら学習に取り組む必要があるが、各学年の目標とする家庭学習時間は確保されていないのが実状である。生徒の実態把握に努め、生徒が主体的にかつ具体的に学習計画を立てて実践できるようになるための指導が必要である。 ②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の改善について、互見授業を活用し、各教科部会を中心に研修している。互いの授業を参観する機会は増えているが、ICTの効果的な利用も含め、指導内容や指導方法についてさらなる授業研究が必要である。	
達 成 目 標	①生徒の学習時間 A. 平日(前期) 全学年2時間以上の割合 B. 平日(後期) 1・2年2時間以上、3年3時間以上の割合 C. 土・日・祝日(前期) 全学年4時間以上の割合 D. 土・日・祝日(後期) 全学年4時間以上の割合 ※学習実態調査…前期5月・後期10月実施	②互見授業に積極的に参加し、教科部会等で情報交換・意見交換を行う。
	① A. 70%以上 B. 70%以上 C. 50%以上 D. 1・2年50%以上、3年70%以上	②互見授業に年間2回以上参加
方 策	・家庭での生活実態を記録させ、予習・授業・復習のサイクルを確立するための時間の使い方を、生徒自身に考えさせる。 ・授業や考査・レポート等により学習状況や学習到達度を把握し、適切な課題を設定して生徒の意欲を引き出す。 ・個人面接を重視し、生徒一人ひとりに合った学習方法を工夫させるとともに学習時間増加推進に取り組ませ、進路目標の達成を図る。	・互見授業週間を設定し、様々な授業を見学できるように、教科の枠を外して実施する。 ・互見授業後の振り返りや、学校外で行われる研修会や公開授業への参加報告など、授業改善のための校内研修を実施する。 ・ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、目的に合った効果的な利用法の研究を進める。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	①「挨拶」を自主的に行い、自覚を持って「服装」を正しく着用する生徒の育成。 ②スマートフォン・携帯電話について、節度のある使用が自主的にできる生徒の育成。	
現 状	①ここ数年継続して、「挨拶」と「服装」に重点を置いて指導してきた結果、生徒たちの挨拶は少しずつよくなっていると感じている。また制服については、5月～10月の期間を生徒が各自の体調や気温にあわせて冬服・合服・夏服を選んで着用する「制服選択着用期間」とし、生徒の自主性を育む指導を行っている。 ②スマートフォン等の利用の仕方については講話・集会等で指導しているが、XやLINEなどのコミュニケーションツールや多様なアプリの使用により、スマートフォンを手放せない生徒が多い。日頃から、スマートフォンの使用時間や適切な利用の仕方について考えさせる指導が必要になってきている。	
達成目標	①「挨拶」、「服装」に関する日常の取り組み 〈自己評価「いつもきちんとできる」、「だいたいいつもできる」の割合〉 ・【挨拶】「授業」80%以上、「校内」80%以上 ・【服装】85%以上	②スマートフォン・携帯電話の使用時間や利用方法に関する意識の向上 〈自己評価「改善している」、「改善しようと思っている」の割合〉 75%以上
	・校紀委員会の活動を充実させ、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲を喚起し、規範意識を育む。 ・朝の生徒玄関での挨拶や、学校全体で行う学期はじめの「マナーアップ週間」での声かけなどを通し、「挨拶」や「服装」への継続的な指導を行う。 ・各学期に服装指導を実施することで、生徒自身が身だしなみについて考える機会を持たせるとともに、落ち着いた学習環境を維持することに努める。 ・必要に応じて、個々の生徒の状況に応じた個別指導を担任と連携して行う。	・生徒指導部と学年が協力し、集会等で指導を行う。また、スマートフォンの使用状況について調査を行い、使用状況を把握するとともに生徒の自覚を促す。また、個別面談においても学習状況と合わせスマートフォンの使用状況について確認し、自律的態度の育成に努める。 ・1年生を対象に「ネットトラブル防止教室」を実施する。様々なトラブルの具体的事例やその対処法について学ぶことにより、スマートフォンやPCの適切な利用の仕方について理解を深める機会とする。また、HRの時間を活用し、スマートフォン等の使用について話し合い活動を行う。 ・教科「情報」の教員と協力し、情報モラルやセキュリティの意識の向上を図る。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導の充実）
重点課題	進路意識を高め、進路目標の実現に向けて学力を向上させる。
現 状	・進路目標が漠然としているために、受動的な学習に終始する生徒が多い。 ・自己の能力や適性を的確に評価しようとする意識を高め、主体的かつ持続的に考えながら進路目標を設定し、その実現に向けて努力していけるよう、継続的に支援していく方策を工夫する必要がある。 ・目標の設定や実現のための方策を示し、学期や学年の進行とともに進路意識を熟成させられるような支援システムを構築し、教員間で共有していく必要がある。
達成目標	・第1学年：文理選択・科目選択を、十分検討した上で決めることができる。 ・第2学年：具体的な進路目標を、十分検討した上で定めることができる。 ・第3学年：受験計画を、十分検討した上で立てることができる。
	1年生：80%以上 2年生：80%以上 3年生：80%以上
方 策	○3年間を通した計画的な進路指導を行い、生徒・学校・家庭が一体となり進路志望の実現を図る。 ・第1学年…生活習慣や学習習慣を確立させる。「総合的な探究の時間」等で進路研究や興味関心に応じた探究活動を行い、自己理解や適性の把握に努めさせる。また、適切な文理選択を支援するため、漠然とした進路希望を持つ生徒や、進路選択に悩む生徒が自己の適性を知り、自分の将来について主体的に考えられるような機会を設ける。「大学招請講義」では興味関心のある講義を受講させ、学部・学科の内容についての理解を深めさせる。 ・第2学年…大学見学等を通して大学や学部について研究し、自己の適性をふまえた具体的な進路目標が掲げられるよう指導する。「大学招請講義」では興味関心のある講義を実際に受講し、学部・学科選択の一助とさせる。また、「合格体験報告会」では先輩達の進路への心構えや学習法などを実際に聞き、新年度に向けて学習への意欲を高めさせる。 ・第3学年…学年集会や外部講師による進路講演会等を開催し、進路志望実現のための具体的な方策や進路に関する情報を的確に示し、意欲を高めさせる。ゴールを見据えた長期・中期・短期の学習計画を作成させ、その進捗状況を検証し、学力を最大限に伸長させる。 ○個人面接に重点を置いて生徒との信頼関係を築き、学習習慣や生活習慣を振り返らせ、進路目標を明確化させる。併せて、オープンキャンパスや学校説明会への参加を勧める。 ○校内模試や外部模試を有効に活用し、結果を学年会や進路検討会で分析しながら教員間で情報を共有し、授業や個別指導（教科添削・小論文・面接）に活かす。 ○入試動向を調査し、それらをもとに本人の適性や成績・意欲などを総合的に勘案し、適切な志望校選択を支援する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動（学校行事への積極的な参加と委員会活動の活性化）	
重点課題	・学校行事の広報活動を充実させ、各行事の活動内容を学校内外に発信するために、生徒会が中心となり、生徒や教職員との協力・連携を強める。 ・各行事や各種委員会活動への積極的な参加を促すとともに、活動内容を工夫し活性化を図る。	
現 状	・学校行事では生徒会が中心的な役割を果たし計画・運営をしている。しかし、一般生徒や教職員にはその活動内容が十分に周知されていない部分がある。そこで、広報活動のみならず話し合いの場を積極的に設けることによって、生徒の主体的な活動を学校内外に知らせ、地域と学校、生徒と教職員が連携する活気溢れる行事を運営できるのではないかと考える。また、生徒に責任と自覚を持たせることによって、興味・関心をより高め、主体的な活動に繋がれると考える。 ・生徒会には現在8つの委員会が設置され、執行部が中心となって学校行事や各種委員会の様々な活動を計画・運営している。また、各ホームにおいても役員、各委員が企画する活動があり、主体的に取り組んでいる。しかし、慣例的な活動の中には、あまり関心が高くないように感じられるものもあり、今後、社会の状況に合わせつつも、より積極的な参加や自主的な行動を促す工夫した取り組みが必要であると考え。	
達成目標	①学校行事の定期的な広報活動	②学校行事や生徒会、HR活動に意欲的に取り組み、充足感を得させる。 振り返りシートをもとに次年度の改善に生かす。
方 策	・「生徒会だより」 毎月発行 学校行事だけでなく、各委員会や生徒会活動の活動報告や告知を分かりやすく記載し、内容を充実させる。 ・掲示板 多くの生徒の目にふれるよう創意工夫を凝らした内容に努める。 ・HPの定期的な更新	・参加意識を高めるために具体的な計画を立て、生徒議会や生徒総会を通して生徒主体の形で共通理解を図る。 ・HR活動に話し合いやグループワーク、学年統一活動などを建設的に取り入れ、生徒の自主性を生かした運営を重視し、指導する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	特別活動（図書館活動の充実）	
重点課題	・生徒の主体的な読書活動を支援し、豊かな心と感性、知性を育む。 ・「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての図書館機能の充実を図り、生徒が自ら課題を発見し、解決する、探究的な学習活動をしやすい図書館づくりを推し進める。 ・本校生徒の特色を生かすように、計画的に蔵書、資料構成をし、キャリア形成の一助とする。	
現状	・読書傾向調査の結果、読書が「好き・どちらかといえば好き」な生徒は72%いるものの、1週間の読書時間が0分である生徒が67%であり、その割合は年々増えている。 ・図書館の年間の利用回数は、前年比で5回未満が12ポイント減り、5回以上10回未満が10ポイント増えた。また、10回以上は約12%で微増し、一定数の確保はできているものの、生徒全体の利用状況には個人差がある。 ・図書館を、教室以外の居場所として利用する生徒もいる。 ＊読書傾向調査・・・令和6年度1、2年生を対象に、令和7年1月実施。	
達成目標	①図書館だより、新着図書案内の発行回数	②1ヶ月平均の図書館入館者数（延べ人数）
	年10回	450人以上
方策	・図書館だより「Library」や掲示物を年10回程度定期的に発行し、新着図書案内や情報提供を行う。 ・図書委員会が企画、運営する図書館行事により、また、本のポップの作成や展示により、読書の楽しさや図書館の親しみやすさをアピールする。 ・読書センターとしての機能を充実する。 1、2年生には、ホームルームの時間を利用して、生徒同士が読書体験を共有する機会を設ける。 (1)読書の時間 「社会を知るための読書」をテーマとして、新書を読む。 (2)ホームルーム読書会（ビブリオバトル） 生徒同士で本の魅力を伝え合い、読書体験を共有する。 (3)校内読書感想文、感想画コンクール 入賞作品を図書館誌に掲載し、鑑賞する。 3年生には、小論文や面接対策などの図書資料を案内し、進路支援を図る。	
	・新入生には、図書館オリエンテーションを設け、本の探し方や利用の方法を周知し、親しみやすい図書館であることを体感させる。 ・新着図書や授業に関連する資料が目にとまるように展示したり、配架を工夫したりして、利用しやすく、居心地のよい環境を整える。 ・学習センター、情報センターとしての機能の充実を模索する。 (1)蔵書の選定と資料収集、レファレンスサービスを充実させ、生徒の主体的な読書や探究学習等の活動を支援する。 (2)進路や職業選択に役立つ図書資料の充実に努める。 (3)教科、学年、分掌、部活動など、教員も利用しやすい図書館づくりを進める。 (4)新聞、雑誌、視聴覚資料にも幅広く触れる機会を提供する。 (5)音楽等芸術関係の資料提供と利用促進に努める。 (6)Wi-Fi環境下で、ICTを活用した学習活動の利便性を高める。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 6 -

重点項目	学校生活その他（保護者・生徒・教職員・地域との連携、校内美化・快適な学習環境の保持）		
重点課題	・本校教育活動とPTA活動の連携を図るとともに地域の声を聞き開かれた学校づくりに努める。 ・校内美化に取り組み、健康的で快適な学習環境を保つことで生徒の学習や学校生活に対するモチベーションを向上させる。また、学校全体で協力して清掃活動に取り組み、生徒同士の助け合いや協働の精神を持たせる。 ・悩みを抱える生徒に対し、多面的に支援する。		
現状	・SPTA懇談会は年2回開催しており、呉高芸術祭の食堂運営、生徒の生活実態等について、生徒・保護者・教職員が意見交換を行う有意義な機会となっている。 ・ホームページへの学校行事の掲載率は9割以上だが、保護者や中学生、地域の方から、迅速で幅広い生徒の活動の掲載を望む声が聞かれる。 ・主体的に清掃に取り組む意識が薄く、教員による指導を必要としている。 ・悩みを抱える生徒が多様化し、学年や学校だけでは対応が難しい事案も発生している。		
達成目標	①PTA行事等への出席率及び保護者の満足度の向上。	②幅広い生徒の活動や学校行事等のHPへの掲載を、概ね2週間以内に行い、タイムリーな広報に努める。	③年9回の大掃除を利用し、美化委員が中心となり生徒全員が主体的に環境美化に努めるようにする。
	・保護者の出席率30%以上 ・満足度調査で4以上（5段階評価）	・学校行事等の内容が確実に伝わるようHPに掲載する。 ・学校行事の概ね2週間以内の更新率80%以上	・大掃除時の重点目標を定め、生徒全員が主体的に美化活動をする。 ・定期的に特別支援委員会を開催し、校内・校外連携を強化することで多面的に生徒を支援する。
方策	・PTA活動のパンフレットやホームページ等を通して各行事の様子を知らせ、保護者の参加意欲を促す。 ・参加した保護者を対象にアンケートを実施し、満足度を調査する。	・あらかじめ掲載する予定の学校行事等を全職員に伝える。 ・学校行事の担当者へ事前事後の更新を促す。	・校舎内外の美化活動を推進するため美化委員がポスターや放送による啓発活動やブロック清掃を行う。 ・毎回、重点項目を確認しながら美化委員によるチェックシートを使った評価をする。 ・学年やカウンセラーと連携し、適切な時期に生徒の支援を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）